

特集 消防団の活動

自分たちの地域は
自分たちで
守る！

自らの地域を守るため、仕事を持ちながら火災予防に努め、もしもの時にはそれに対応する「消防団」。今回は消防団の活動を紹介し、4年ぶりに開催された「春季消防大演習」についてお伝えします。

最上町の火災件数

	H30	R1	R2	R3	R4
火災件数	3	5	5	2	5

※風水害、雪害等は含まず

町内において、この5年間で、平均4件程度の火災が発生。

最上町の消防団

「消防団」は、市町村の消防機関です。しかし、消防署員とは違い、消防団員は町の特別職ではあるものの普段は別の仕事をしている人がほとんどです。「自分たちの地域は自分たちで守る」という使命感のもとに活動しています。

当町には、地区ごとに12の分団が存在し、町内で火災などが発生した場合に出動し、消防署員とともに消火活動などを率先して行ないます。

災害や火災への対応

消防団の活動で期待されていることは、「地域との密着性」と「即時対応力」だと言われています。最上町で想定される災害は河川氾濫や土砂崩れ等があげられます。

災害で記憶に新しいのは平成30年の線状降水帯発生による最上小国川の増水です。この時も消防団員は、避難する際の誘導などを行ないました。避難者がスムーズに避難できるのは、消防団員が日ごろから地域とのつながりを密接にしているからです。

昨年は2件の住宅火災と1件の山林火災に消防団が出動しました。火災などでは消防署員と同じくらいの早さで火災現場に駆けつけてくれます。

訓練と活動

地域防災の中核として様々な場面で活動している消防団員。8月には、町内一斉の防災訓練と合わせ、町内三地区（東地区、中央地区、西地区）において、火災を想定した大規模な「火災防ぎよ訓練」を行なっています。小型ポンプをはじめとする機械、器具の操作及び使用法の確認や、火災現場での指揮命令系統の確認、各関係機関との連携など本番さながらの実践的な訓練を行ない、火災の際には、迅速かつ安全に消火活動に当たれるよう準備しています。

また、火災の予防活動として春や秋など、空気が乾燥している時期に、地域を巡回し広報活動を行なっています。

現状と「これから」

全国の統計を見ると消防団員が激減しています。昭和40年代の全国の消防団員数は約133万人に対し、令和4年度では約78万人とおおよそ半減。こうした傾向は当町においても例外ではありません。グラフ（P.3下段左）を見ると18〜30歳の団員数が平成24年から令和3年までの期間で、半数に減りました。少子高齢化の影響もありますが、町外に仕事を持っている方や、仕事が忙しく消防団活動に参加できないことも、新規加入を難しくする理由となっています。

4年ぶりの開催となった「春季消防大演習」



5月3日、4年振りとなる町消防団春季消防大演習が行なわれました。第一会場となった向町商店街では、幼年消防クラブの皆さんが防火の誓いを披露。その後、二戸団長を先頭に威風堂々の分列行進が行なわれました。引き続き、会場を最上中学校グラウンドに移し、通常点検と小隊訓練が行なわれ、統率のとれた訓練内容に会場から大きな拍手が送られました。

また、最上中学校吹奏楽部による記念演奏も行なわれ、見事な演奏で会場をより一層盛り上げてくれました。

久々の開催に感謝 予防消防で安全な まちを目指す



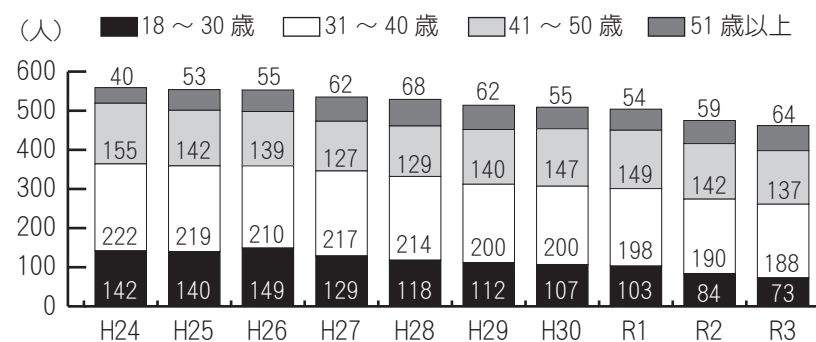
最上町消防団長 二戸孝芳

新型コロナウイルスの影響により4年ぶりの開催となった大演習ですが、消防団の皆さんのご協力と最上中吹奏楽部の演奏により、大変盛り上がりしました。誠に感謝申し上げます。

今後の消防団の活動は、「予防消防」の取り組みを一層強化し、安全な最上町に住み続けられるよう防火、防災の広報活動を各地域で行なっていきたいと思います。

また、若い消防団員が各地区に入ると消防団活動の活性化につながります。入団して我々と共に最上町を守りましょう。

最上町の消防団員数の推移



地域で「安心」「安全」に過ごすためには消防団の活動と、そこに住む人たちの協力が非常に大切です。団員数が少なくなっている今、自分たちの地域は自分たちで守れるように、消防団だけでなく、一人ひとりが日頃から火災予防、災害の備えに努め、地域一体で自主防災が行なえるようにしていきたいと思います。